

大学生の運動部活動参加の動機に関する研究

A Study about University Student Motivation to Participate in Athletic Club

1 K 0 8 B 1 1 9

高島 真祐

指導教員

主査 武藤泰明先生

副査 木村和彦先生

【諸言】

大学生は自由に使える時間が多く、活動の幅も広い。そのため、自分のやりたいことをもっともできる年代であると思う。そのような大学生が、運動部活動に参加して日々厳しい練習をこなし、部の厳しい規則に縛られて生活することをあえて望んでいるのはなぜだろうか。

近年、学生確保のためにスポーツ推薦など多様な入学形態を取り入れる大学が増加した。その結果、大学スポーツの勝利至上主義に拍車がかかっている現状がある。それに伴い、人間教育の面で大学側の目が行き届かず、部員の不幸事が起きるという例も増えている。大学スポーツの在り方が問われているいま、部員がどのような動機で部活に参加しているかを把握することは重要であると考える。運動部活動参加の動機を明確化し、より一層充実した大学生活を送るため、また大学スポーツ存続のために、本研究を通して大学生の運動部活動参加の動機を探る。

本研究は、関東大学バレーボール連盟所属の直轄チームにアンケート調査を行い、部員の運動部活動参加の動機を性別・学年別・役割別・入学方法別・所属部別に比較し、どのような違いが出るかを分析することを目的とする。

【研究方法】

調査対象：関東大学バレーボール連盟所属の直轄チーム（男子1・2・3部、女子1・2部）を対象にした。直轄50チームに調査票を配布し、39チーム735名の回答を得た。

調査時期：平成23年10月下旬から11月上旬にかけて行った。

調査票：山本（1990）が用いた部活動の参加動機に関する質問25項目を用い、5段階評定により回答を求めた。

研究方法：Microsoft Office Excel を用いて分析した。

【結果・考察】

全体的な傾向として、「回避」動機以外の6つの動機で回答は肯定的であったが、なかでも「健康・

体力」動機、「親和」動機の得点が高く、部活動参加に関わる重要な動機であることがわかる。スポーツを健康づくりや体力の向上、あるいは友達づくりの手段として位置付けているということの意味し、スポーツのもつ手段的な価値が大いに関係していると言える。一方、スポーツの本質的な部分に関わるとされる「達成」動機は、自己の能力への挑戦といった側面が、運動部に所属し続ける理由として重要であることを意味していると言える。本来は、スポーツのもつ本質的な要素に重要度をおくべきかもしれないが、それだけでなく「親和」動機や「社会的有用性」動機に高い得点が示されたように、部活動参加という行為はさまざまな動機から構成されていることが分かる。

「回避」動機を構成する項目に対しては、その反応はいずれも否定的なものであった。つまり、全体的にみれば、やめられないから部活動を続けているという理由は優位にはなり得ないということである。

【まとめ】

本研究を通して、「回避」動機が部活動を続けている理由として優位にはなり得ないということがわかり、大きな収穫となった。さまざまな項目によって動機を比較検討したが、それによってわかったことは、必ずしも参加動機にパターンがあるわけではなく属性によって参加動機も異なり、単純な傾向を示すことは難しい。それを踏まえて、指導者も部員に接することが必要である。心理的側面の充実とともに、技術面だけでなくその心理的側面にも配慮できる指導者が今後必要となる。セカンドキャリアや大学運動部の在り方によっても部員の部活動参加動機は変化すると考えられるため、定期的に部員の参加動機を調査することが必要であると考えられる。

また、「回避」動機を抱きながらなんとなく時間を過ごすのではなく、目的をもって運動部活動に参加し、運動及びスポーツに親しむ態度を育む教育的機会として機能していくことが今後の課題となる。